

## デザイン思考の活用による、 「県民の本音」を起点にした問題発見・施策構築の実践

デザイン思考の活用により県民が抱える潜在的な問題を発見し、「県民の本音」に応えられるような施策構築を行うために、公式なタスクフォースを設置する。

### ■ 施策概要

#### 【実施方法】

- **政策テーマに関する様々な県民の価値観・人生観**などを、行動観察、デプスインタビュー等の定性調査・分析の活用によって掘みとり、いくつかの「**人物像（ペルソナ）**」を描く。
- **描いた人物像の抱える問題を解決するためのアイデアソン**を年齢や職業など多様な人々と一緒に開催し、行政のみが課題解決に取り組むのではなく、**すべてのアイデアソン参加者がお互いできることを模索**しあう。
- 創出された行政側の施策アイデアについては、**プロトタイピングや検証を積み重ね**、精度の高い施策案へと固めていく。
- 進捗状況について随時公表するとともに、一連のプロセスや成果を検証し、今後のデザイン思考の行政への活用について検討することとする。

#### 【実施体制】

- 部局の枠を越えた調査・施策立案を要することから、**全庁的な公募型タスクフォースを設置して実施**する。タスクフォースメンバーには、デザイン思考に関する基礎理解が必要なことから、外部講師（メンター）を交えた一定期間（1～2ヶ月程度）のトレーニングを行い、デザイン思考に必要な姿勢や態度を身につけることとする。
- タスクフォースへの参加について、**所属の事務分掌や所属長許可によるハードルをなくし**、希望する職員がメンバー、オブザーバー等の形で自由に参加できるよう設置要綱を定める。
- 前例のないマネジメントが求められること、確実な進捗管理が必要であることから、責任者および主要メンバーは専従とすることが望ましい。

### ■ 施策効果

- 部局の所掌ではなく「県民の本音」という切り口で政策テーマを捉えることによって、**部局の枠組みにとられない、新たな問題発見・施策構築が実現**される。
- 県庁の掲げる経営理念である「**対話と共感、協働で築く県民主役の県政の実現**」に、政策形成の面から寄与する。

## 政策形成に関するスケジュール・プロセスの透明化

組織の枠組みを越えて様々な主体が政策に参加できるようになるには、現状や既存の施策、それらの今後の展開等についての情報が、オープンに共有されている必要がある。そのために、県庁内で行われている政策課題協議、プロジェクト等の情報が、庁内外問わず共有できる情報環境を整備する。

### ■ 施策概要

県庁内で行われている政策課題協議、プロジェクト等について、どのようなスケジュール・プロセスで進み、どのように政策として決まろうとしているのかを、一目で理解できるよう一覧にまとめ、可視化する。県職員のみならず多様な主体がアクセスできるよう、ウェブサイトにタイムリーに掲載する。

### ■ 施策効果

政策に関する情報の透明化により、県庁の政策形成について、あらゆる県職員や県民の参加意識やモチベーションを高めることができる。

## デザイン思考の理解を深めるための実践的な研修の実施

若手職員から管理職までの全レベルを対象として、デザイン思考の基礎知識について研修を行うとともに、希望する職員が、より実践的なトレーニングを行う選択型研修に自由に参加できるようにする。

### ■ 施策概要

研修は講座型のものではなく、行動観察やデプスインタビューといった手法によって、問題を発見し、政策立案をするという実践的なものとする。

新たな研修を設けるほか、「政策テーマ調査研究・研修事業」（任意のテーマで職員どうし政策研究ができる制度）について所属長許可を問わず自由に研究・調査を行えるよう実施要領を改める、「近江地元学研修」（入庁2年目の職員を対象としたフィールドワーク研修）にデザイン思考の考え方を取り入れる等、既存の研修制度の改良・応用も考えられる。

### ■ 施策効果

「対話と共感、協働で築く県民主役の県政の実現」のためのデザイン思考の活用について、個々の職員が興味・関心をもつきっかけを創出する。